

2021年11月期 中間決算 説明資料

イーサポートリンク株式会社

2021年7月29日

■ 2021年11月期 中間決算	P. 3
1. 上期業績ポイントと主要項目	P. 4
2. セグメント別の状況	P. 1 1
■ 2021年 通期業績の見通し	P. 2 0

2021年11月期 中間決算

Several thin, parallel white lines of varying lengths and slight curves, extending diagonally from the bottom right towards the top right of the slide.

1. 上期業績のポイントと主要項目

売上高	2,730百万円	前年比	△92百万円（3.3%）の減収
営業利益	71百万円	同	△25百万円（26.2%）の減益
経常利益	62百万円	同	△31百万円（33.1%）の減益
親会社株主に帰属する 四半期純利益	20百万円	同	△31百万円（60.2%）の減益

- ✓ 農業支援事業（りんご、国産野菜、有機野菜の販売事業等）は増収となったものの、輸入青果物サプライチェーン事業の減収が新規事業（青果売場構築支援事業、国産青果物プラットフォーム事業等）の増収を上回ったため、全社で減収となった。
- ✓ 生産性の向上に関する取り組み等により、人件費などの原価を削減したものの減収分を補うことができず、全社で減益となった。

2021年11月期第2四半期 連結損益計算書

6

単位：百万円

	2020年11月期 第2四半期	2021年11月期 第2四半期		
		実績	前期増減	前期比
売上高	2,822	2,730	▲92	96.7%
売上原価	1,727	1,650	▲77	95.5%
売上総利益	1,095	1,080	▲15	98.6%
販売管理費および 一般管理費	998	1,008	10	101.0%
営業利益	96	71	▲25	73.8%
経常利益	93	62	▲31	66.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	51	20	▲31	39.8%
一株当たり当期純利益	11.75	4.67	—	—

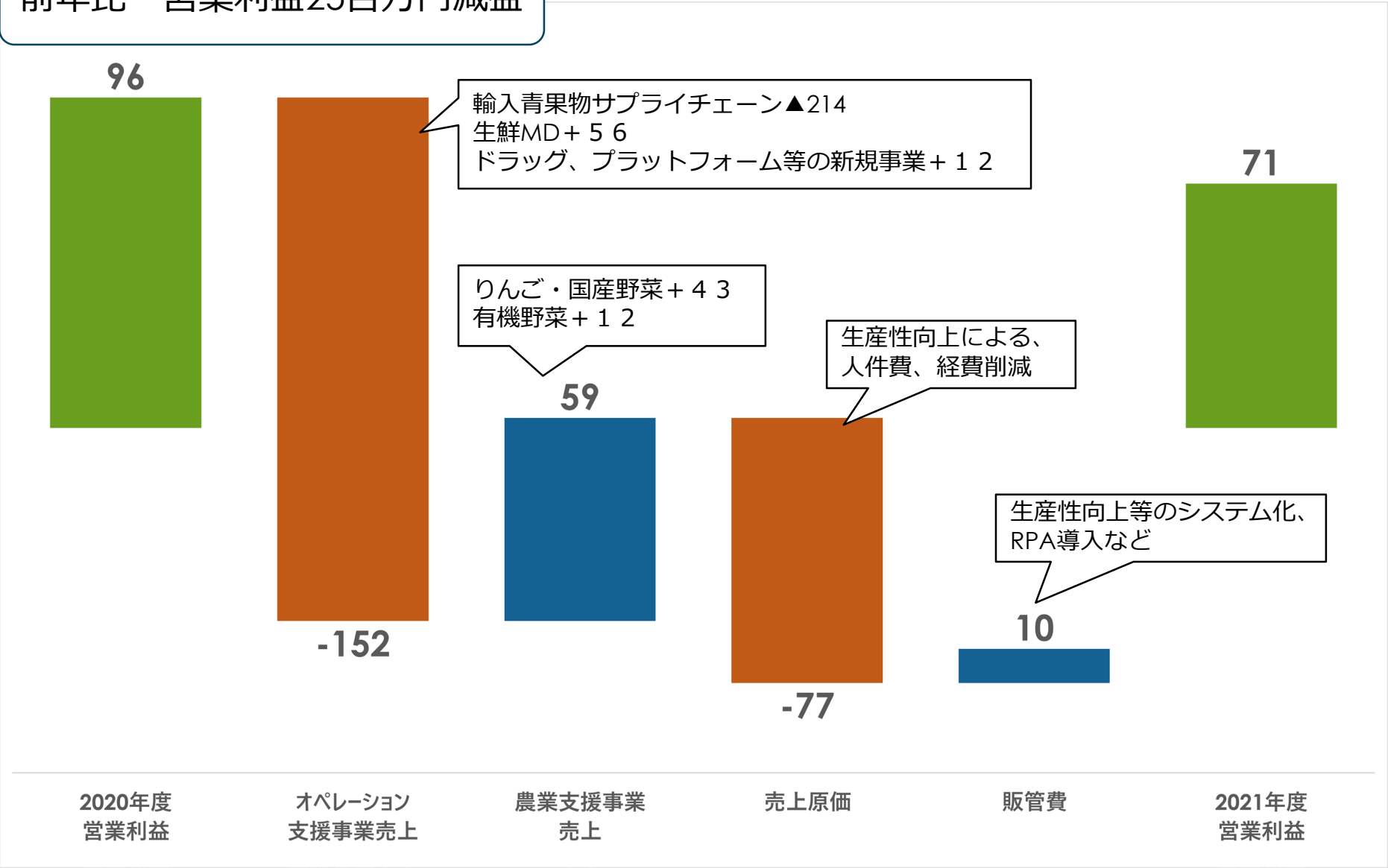
※百万円未満切り捨て 縦計、横計の合計値が合わない場合がございます

単位：百万円

	2020年11月期 第2四半期	2021年11月期 実績	第2四半期 前期増減	前期比
売上高	2,822	2,730	▲92	96.7%
オペレーション支援事業	2,234	2,081	▲152	93.2%
農業支援事業	588	648	59	110.2%
消去	0	▲3	—	—
営業利益	96	71	▲25	
オペレーション支援事業	679	593	▲86	87.2%
農業支援事業	▲54	▲26	27	206.8%
消去	▲528	▲495	33	

※百万円未満切り捨て 縦計、横計の合計値が合わない場合がございます

前年比 営業利益25百万円減益



単位：百万円

	2020年 11月期末	2021年11月期第2四半期		
		実績	前期増減	前期比
現金	2,910	3,146	236	108.1%
ソフトウェア	484	330	△154	68.2%
投資有価証券	99	99	0	100.0%
資産合計	5,535	5,593	58	101.0%
負債合計	1,388	1,448	60	104.3%
株主資本	4,177	4,175	△2	100.0%
純資産合計	4,147	4,144	△3	99.9%
負債・純資産合計	5,535	5,593	58	101.0%

※百万円未満切り捨て 縦計、横計の合計値が合わない場合がございます

単位：百万円

	前第2四半期 累計期間	当第2四半期 累計期間
税引き前利益	93	61
減価償却費及び償却費	200	194
営業活動によるC F	336	387
投資活動によるC F	△36	△101
有利子負債増減	△43	△23
財務活動によるC F	△97	△49
現金及び現金同等物の増減額	201	236

※百万円未満切り捨て 縦計、横計の合計値が合わない場合がございます

2. セグメント別の状況

単位：百万円

オペレーション支援	2020年度 第2四半期	2021年度 第2四半期	増減
売上高	2,234	2,081	▲152
輸入青果物サプライチェーン	1,454	1,239	▲214
生鮮MDシステム	695	751	56
青果売場構築支援	11	15	4
国産青果物流通プラットフォーム	0	8	8
営業利益	679	593	▲86

※百万円未満切り捨て
※主要サービスのみ記載しています

単位：百万円

オペレーション支援	2020年度 第2四半期	2021年度 第2四半期	増減
売上高	2,234	2,081	▲152
輸入青果物サプライチェーン	1,454	1,239	▲214
生鮮MDシステム	695	751	56
青果売場構築支援	11	15	4
国産青果物流通プラットフォーム	0	8	8
営業利益	679	593	▲86

実績のポイント／2021年11月期 上期に取り組んできたこと

既存顧客との契約一部満了もあり、15%程度の減収となった。
前期より引き続き、国産青果物運用のオペレーション業務を受託するために、今以上の低コストオペレーションの実現に向けて、効率化を至上命題として取り組んでいる。

2021年11月期の課題

上期実施結果

オペレーションの効率化と
品質向上

- RPAツール導入により業務量減少に対応する労働時間が削減が実現。
- 「無人化プロジェクト」を立ち上げ無人化ツールの開発中。
- 働き方改革を実施し、リモートワーク推進

単位：百万円			
オペレーション支援	2020年度 第2四半期	2021年度 第2四半期	増減
売上高	2,234	2,081	▲152
輸入青果物サプライチェーン	1,454	1,239	▲214
生鮮MDシステム	695	751	56
青果売場構築支援	11	15	4
国産青果物流通プラットフォーム	0	8	8
営業利益	679	593	▲86

実績のポイント／2021年11月期

上期に取り組んできたこと

主要顧客である小売企業は内食ニーズの高まりと大手量販店グループ企業への導入拡大等により、トランザクション件数が前年上期と比較して10%以上増加し、増収となった。



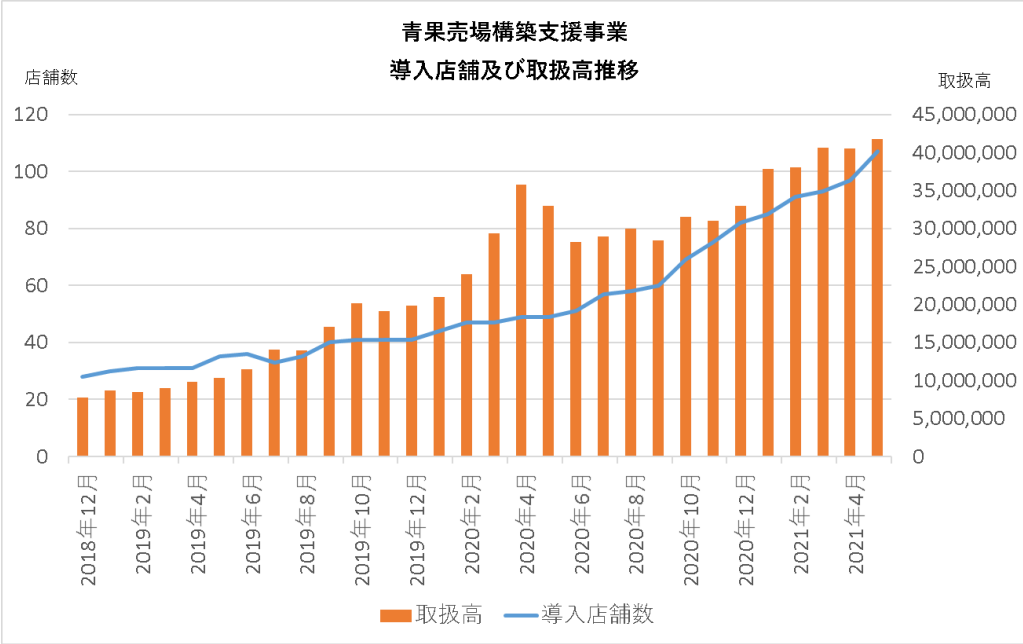
2021年11月期の課題	上期実施結果
大手量販店グループ企業におけるシェアアップ	- 西日本エリアの地方スーパーマーケットのニーズを満たした新機能開発への投資を実施 - 上記のほか、グループ企業であるスーパーマーケット等への営業強化
上記グループ以外のチェーンストアへの拡販	上記に対応した新機能が、地方スーパーマーケットのニーズとも合致することから、営業活動を本格化

オペレーション支援	単位：百万円		
	2020年度 第2四半期	2021年度 第2四半期	増減
売上高	2,234	2,081	▲152
輸入青果物サプライチェーン	1,454	1,239	▲214
生鮮MDシステム	695	751	56
青果売場構築支援	11	15	4
国産青果物流通プラットフォーム	0	8	8
営業利益	679	593	▲86

実績のポイント／2021年11月期

上期に取り組んできたこと

2021年5月末時点で107店舗に導入。
ドラッグストア側のニーズは高いものの、ドラッグストア業界が新店対応を増やすなど業績が好調で当社サービスの導入拡大に注力できない状況が続いたこと、大幅な店舗展開を見据えた人員増員に伴う教育に時間を要したことなどで、当社サービスの展開スピードが弱まったことにより、通期は180店舗程度（200店舗の計画）になる見込み。



2021年11月期の課題	上期実施結果
パートナー企業を支援することで、店舗展開スピードを上げる	- 青果売場支援（アプリ）の使い勝手向上 - 魅力ある売り場づくりの品揃え（必須、選択、チャレンジアイテム）レイアウト明示
新規企業開拓とドミナント展開の推進	新たなドラッグストア1社に対して導入をスタートさせ、ドミナント展開を推進しやすい環境を整備。

単位：百万円

オペレーション支援	2020年度 第2四半期	2021年度 第2四半期	増減
売上高	2,234	2,081	▲152
輸入青果物サプライチェーン	1,454	1,239	▲214
生鮮MDシステム	695	751	56
青果売場構築支援	11	15	4
国産青果物流通プラットフォーム	0	8	8
営業利益	679	593	▲86

実績のポイント／2021年11月期 上期に取り組んできたこと

国産青果物流通のBPOに関して、大型生産者と小売企業との直取引が売上に寄与していることと、es-Marshē（地場調達）は、既存の展開先である大手量販店との実証実験は継続中。予定していた大手スーパーマーケットは来春へ遅延。

2021年11月期の課題

上期実施結果

生産者の出口戦略と合わせた直取引

- ・ 大型生産者（こと京都社等）との直取引など順調に推移。
- ・ 人手不足とも相まって国産青果のBPOのニーズが顕著。
- ・ 費用対効果を上げていくことが下期の課題。

地場調達支援（買取モデル、消化仕入モデル）の展開

- ・ 大手スーパーマーケットの導入が来春に延期。
- ・ 既存の展開先では生産者の開拓や配送に関しての課題が顕在、パートナー企業との連携を模索中。

輸入青果物商社向け（将来は国産加工品へ拡大）のストックリンク（在庫管理）の開発。

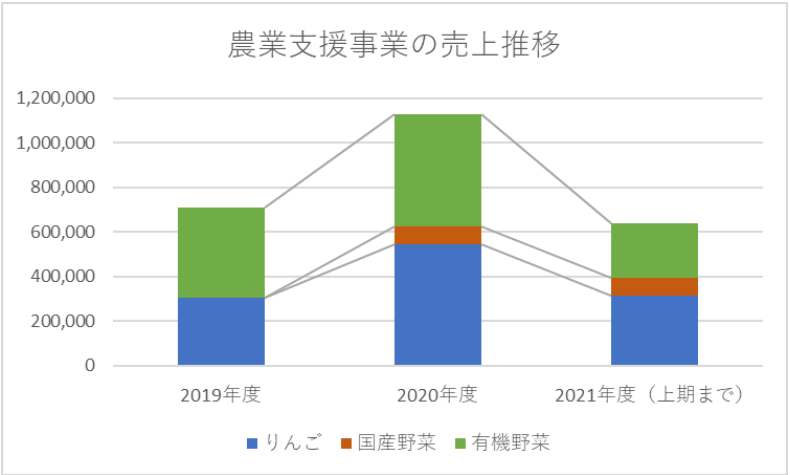
- ・ スtockリンクに関連したBPOなどセットで展開すべく、サービス内容、営業展開方法等を精査中。

単位：百万円

農業支援	2020年度 第2四半期	2021年度 第2四半期	増減
売上高	588	648	59
りんご・国産青果物販売	356	399	43
有機農産物販売	225	238	12
営業利益	▲54	▲26	27

※百万円未満切り捨て
※主要サービスのみ記載しています

農業支援	単位：百万円		
	2020年度 第2四半期	2021年度 第2四半期	増減
売上高	588	648	59
りんご・国産青果物販売	356	399	43
有機農産物販売	225	238	12
営業利益	▲54	▲26	27

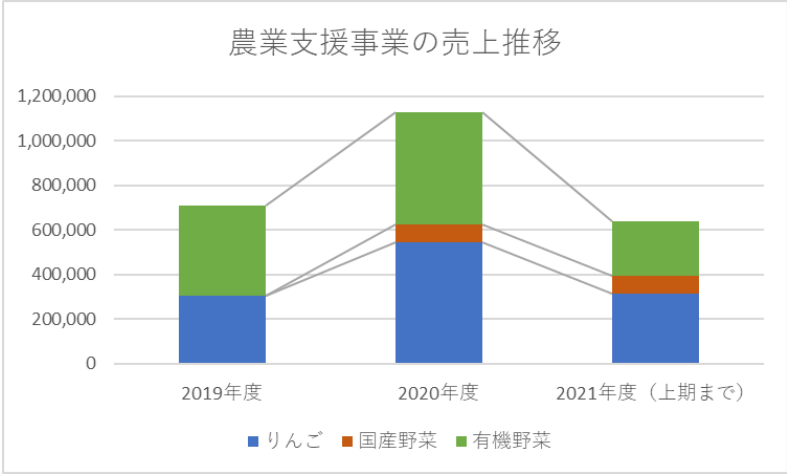


実績のポイント／2021年11月期 上期に取り組んできたこと

りんごの相場下落、品質低下などがあったものの集荷量が過去最大、国産野菜も継続販売できる商材が寄与し、昨年対比で10%以上伸長。

2021年11月期の課題	上期実施結果
安定的な集荷体制確保（18万カートの集荷）	組合からの集荷以外に、農協やファーマインド社との取り組みなど産地とのコミュニケーション強化を図っている。
外食や加工メーカーなど、小売以外の販売チャネル開拓	既存の販売チャネルに対して、販売量を拡大する方針に舵を切ったため、販売チャネルの拡大ではなく調達先の確保を優先した。

単位：百万円			
農業支援	2020年度 第2四半期	2021年度 第2四半期	増減
売上高	588	648	59
りんご・国産青果物販売	356	399	43
有機農産物販売	225	238	12
営業利益	▲54	▲26	27



実績のポイント／2021年11月期 上期に取り組んできたこと

有機農産物販売は、予定したアボカドが販売できなかったこと、バナナの品質不良による販売制限があったものの、昨年対比で5%の増収となった。また、千葉に物流拠点を設置し、物流コストを30%削減している。

2021年11月期の課題	上期実施結果
生協を中心とした販売を強化 大手量販店グループ企業との 取り組み	生協への販売拡大は順調に推移 大手量販店グループ企業の農業生産法人との取り組みとして、 当社グループの農場の商材を大手量販店グループ企業に提供を 開始した（売場を確保）

2021年 通期業績の見通し

Several thin, parallel white lines of varying lengths and slopes are positioned in the lower right quadrant of the slide, creating a sense of motion or a stylized graphic element.

通期業績見通しに変更はありません

※2020年11月期決算説明会資料より

売上高	5,907百万円	前年比	254百万円（4.5%）	の増収
営業利益	73百万円	同	△192百万円（72.1%）	の減益
経常利益	71百万円	同	△164百万円（69.9%）	の減益
親会社株主に帰属する 当期純利益	48百万円	同	△68百万円（58.3%）	の減益

単位：百万円

	2020年 11月期	見通	2021年11月期	
			前期増減	前期比
売上高	5,653	5,907	254	104.5%
オペレーション支援事業	4,479	4,225	△254	94.3%
農業支援事業	1,177	1,692	515	143.8%
内部取引	△3	△8	—	—
営業利益	265	73	△192	37.9%
オペレーション支援事業	1,475	1,104	△371	74.8%
農業支援事業	△193	△100	93	148.2%
全社消去	△1,017	△931	—	—

※百万円未満切り捨て 縦計、横計の合計値が合わない場合がございます

本資料における注意点

本資料に記載されている内容は、資料作成時点の入手可能な情報に基づき、当社で判断したものであります。

予想に内在する様々な不確定要因や外部環境等の変化等により、実際の業績と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

＜本資料ならびに I R 関係についてのお問い合わせ先＞

イーサポートリンク株式会社

社長室 I R 担当

T E L : 03-5979-0784 /

E mail : IR@e-supportlink.co.jp